

令和5年度 クリニカルラダーレベルⅡ 評価表

所属

氏名

評価基準

- 4 できる
3 ほぼできる
2 あまりできない
1 できない

項目	小項目	自己評価		教育担当者		
		10月	2月	10月	2月	
目標	1. 助産過程を踏まえて個別的なケアができる 2. 支援を受けながら、助産外来においてケアができる 3. ローリスク/ハイリスクの判断および初期介入ができる 4. 特徴的な事例について、ウイメンズヘルスケアができる 5. 支援をうけながら、地域ニーズの把握、地域資源の活用や多職種連携・協働が実践できる					
倫理的 力の 感 応	目標	ケアリング実践のための自己課題を明確にできる				
	実践	1. レベルに合った対象へのケアについて、ケアを提供した事例を具体的に思い浮かべながら、助産師としての姿勢を自己評価できる ①実践事例をまとめカンファレンスを行う(ケアリング行動や妊産褥婦や家族にとっての意味を考える)				
マタニティ ケア能力	妊娠 期の 診 断 と ケ ア	情報 収 集	目標	妊産褥期・産褥期、新生児期とその家族が心身共に安定・快適な生活が送れるように必要な情報を収集できる		
		実践	1. 妊産褥期・産褥期の健康生行動診断・経過診断/新生児期の経過診断に必要な情報を個別的な助産ケアのために収集できる ①アセスメントに必要な情報を整理できる ②妊産褥期・産褥期・新生児期におけるハイリスクの要因について、個別性に合わせて関連する情報を明らかにすることができる 2. 妊産褥婦とその家族に対する課題・ケア方針に必要な情報を収集できる			
		ア セ ス メ ン ト の 明 確 化	目標	収集した健康生行動診断・経過診断の情報を分析できる		
		実践	1. 妊産褥婦・新生児に起こりうるあるいは起こっている問題を明確にできる 2. 妊産褥婦・新生児のニーズを明確にできる 3. 問題の優先順位を決定することができる 4. 支援を受けながら、ハイリスクの要因について明らかにすることができる			
		診 断	目標	健康生行動診断・経過診断によって適切に診断できる		
		実践	1. 妊産褥婦・新生児とその家族が心身共に安定・快適な生活が送れるように健康生行動診断・経過診断によって適切に診断できる 2. 診断した内容から問題の優先順位を考慮することができる ①「医療機関における助産ケアの質評価:第2版」(日本看護協会)妊産褥期の診断とケア101~103の項目にて確認する			
	計 画 立 案	目標	妊産褥婦・新生児の状態・問題リスト、目標に個別性がある計画がたてられる			
		実践	1. 個別性がある計画が立案できる ①妊産褥婦・新生児の個性を踏まえた助産計画を立案できる ②立案した助産計画を評価・修正できる ③妊婦および家族参加型の助産計画を立案できる 2. ハイリスク妊産褥婦・新生児に関する、個別性・優先度を考慮した助産計画を立案できる 3. 必要時支援を受けながら緊急時に指示された母体・胎児/新生児に必要な計画を立案できる			
		実 践	目標	基本的助産技術が実施できる		
			実践	1. 助産ケア計画に則り実践できる ①妊産褥婦・新生児の状態や反応を判断しながら、必要なケアが行える ②現在挙げられているニーズや問題以外の新しい情報を、時期を逸せず記録し、計画の追加や修正ができる 2. 災害時に妊産褥婦・新生児に対して必要な援助が理解できる ①乳幼児安全教室の運営に参加する ②災害に関する研修を受講または実践できる		
		評 価	目標	根拠に基づき自分の行った助産ケアを評価できる		
			実践	1. 提供した助産ケアの結果を、根拠に基づき評価できる 2. 目標の達成度の結果を評価でき、計画を修正できる 3. 行った助産ケアを要約して説明・記述できる		
専 門 的 自 立 能 力	教 育	目標	目的をもって自主的に自己学習を継続する			
		実践	1. 教育プログラムや院内外の研修に、目的をもって自主的に参加できる 2. 教育・指導について基本的事項を実施できる 1)看護学生、後輩助産師、看護師の指導ができる			
	倫 理	目標	職業人として自覚を持ち、倫理に基づいて行動できる			
		実践	1. 妊産褥婦・家族の価値観を理解できる 2. 価値の多様性、互いの価値を尊重することの重要性を理解し、行動できる 1)医療倫理セミナーに参加する			

項目	小項目	自己評価		教育担当者		
		10月	2月	10月	2月	
ウイメンズヘルスケア能力	ル女性観からのライフサイクル	目標	女性の成長に伴う身体、精神と社会的機能状況について、共感的態度をもち、対象への支援を計画できる			
		実践	1. 女性のライフサイクルの観点をアセスメントした支援を計画し、対象への理解を示すことができる 1) 富山県看護協会「プレコンセプションケア」受講する 2) プレコンセプションケアについて部署の勉強会で講義ができる 2. 女性とその家族の発達段階をアセスメントし、支援を計画できる 3. 女性のライフサイクル特有の問題の管理に向けた健康教育を計画できる 1) 地域住民に対して更年期障害の出前講座(集団保健指導)を計画できる 4. 女性特有の疾患を有する女性の支援を計画できる			
	妊娠から子育て期における支援	目標	生涯を通じた女性の健康支援について計画することができる			
		実践	1. 指導を受けながら、産前・産後のメンタルヘルスケアを計画・実施・評価できる 2. 産後ケアWGでの事例検討会にてファシリテーターとして参加する 3. 新生児訪問、産後ケア(デイ型、アウトリーチ型)を計画・実施・評価できる 4. 父親の役割について理解することができる 5. 指導を受けながら、産前・産後のメンタルヘルスに係る健康教育を計画・実施・評価できる 1) 指導を受けながら、マタニティブルー、産後うつについての指導案を作成する 2) 指導を受けながら、骨盤ケア・リラクセーションケアを計画・実施・評価できる			
		実践	1. 母乳に関する院外研修を受講する 1) 富山県母乳育児推進協議会等、富山県で開催する母乳に関する研修会に参加する(富山県内の支援について学ぶ) 2. 母乳育児支援に係る健康教育を計画・実施・評価できる 1) 母乳育児支援、児との愛着形成と親役割獲得について健康教育を計画・実施・評価できる 2) 授乳期の薬と栄養について健康教育を計画・実施・評価できる			
		実践	1. 新生児から乳児の発育・発達について理解できる 2. 小児の発達障害について理解できる 3. 離乳食に係る健康教育を計画・実施・評価できる			
		実践	1. 指導を受けながら、妊娠から子育て期における母親とその家族の支援を計画・実施・評価できる 2. 指導を受けながら、妊娠から子育て期における母親とその家族の支援に係る健康教育を計画・実施・評価できる			
		実践	1. 指導を受けながら、妊娠から子育て期における母親とその家族の支援に係る健康教育を計画・実施・評価できる 2. 指導を受けながら、妊娠から子育て期における母親とその家族の支援に係る健康教育を計画・実施・評価できる			
	現代女性の健康問題	目標	現代女性の健康問題について支援を計画できる			
		実践	1. 性感染症に罹患している女性とパートナーの支援を計画できる 2. 性感染症予防に係る健康教育を計画できる			
		実践	1. 不妊、不育の悩みをもつ女性とパートナーの支援を計画できる 2. 不妊症、不育症に係る健康教育を計画できる 3. 関連する保健医療職と連携できる			
		実践	1. 月経異常や月経障害等を有する女性の支援を計画できる 2. 月経異常や月経障害等に係る健康教育を計画できる			
実践		1. 暴力を受けた女性の支援に必要な知識や暴力を受けた女性の身体、精神と社会的機能状況のアセスメント、支援方法について理解できる 2. 女性に対する暴力予防に係る健康教育を理解できる				
実践		1. 暴力を受けた女性の支援に必要な知識や暴力を受けた女性の身体、精神と社会的機能状況のアセスメント、支援方法について理解できる 2. 女性に対する暴力予防に係る健康教育を理解できる				
セクシャルヘルス	目標	多様な性について支援を計画できる				
	実践	1. 女性とパートナーに対して家族計画の支援を計画できる 2. 家族計画に係る健康教育を計画できる ①1か月健診時に行う家族計画について指導案を作成する				
	実践	1. 予期せぬ妊娠をした女性の支援に必要な知識や予期せぬ妊娠をした女性の身体、精神と社会的機能状況のアセスメント、支援方法について理解できる 2. 予期せぬ妊娠に係る健康教育を理解できる				
	実践	2. 多様な性の支援に必要な知識や多様な性の身体、精神と社会的機能状況のアセスメント、支援方法について計画できる。 ①日本助産師評価機構オンデマンド研修「多様な性の支援」				
		自己評価		評価者のコメント		
10月						
2月						

総合評価 合 否

令和 年 月 日 部長印

評価者 印
 所属長 印